

地域包括ケアを多職種で実現!

地域連携 入退院と在宅支援

2020 9・10 月号

隔月刊誌 [特典] 年ごめ購読会員は
セミナー参加料割引

企画/日総研グループ 発行/日総研出版©
隔月刊誌 地域連携 入退院と在宅支援 第13巻 第4号
2020年9月30日発行(奇数月の末日発行)

特集 1

入院患者の生活機能を低下させない!

在宅復帰をスムーズにする
入院関連機能障害対策

特集 2

形だけの連携・協働から
“もう一歩”進める
入退院支援の仕組みづくり

Web教材 ● 加賀市における在宅療養支援の推進に向けた連携の取り組み ほか

連載 ● Dr.武藤の連携トピックス
● ソーシャルワーカー育成の現場から ほか



在宅診療部における地域のケアマネジャーと 医師の連携に関する取り組み

特集2 形だけの連携・協働から“もう一歩”進める入退院支援の仕組みづくり

医療法人篠原湘南クリニック クローバーホスピタル



前・在宅診療部 在宅療養支援室 室長
(現・医療法人篠原湘南クリニック クローバー居宅介護支援事業所 所長)
山崎勝博

やまざき・かつひろ◎社会福祉士、介護福祉士、主任介護支援専門員。2002年町田福祉専門学校卒業。従来型・ユニット型老健、特養などで介護職として経験を積み、フロア主任、ユニット長を務める。2010年介護支援専門員取得後は横浜市福祉サービス協会などでケアマネジャーとして勤務。2018年10月クローバーホスピタル在宅診療部に勤務。2019年9月在宅療養支援室室長として地域のケアマネジャーなどとの連携を深める。2020年7月同法人居宅介護支援事業所の管理者となり、現在に至る。



在宅診療部 看護師長代行 **小池仁美**

こいけ・ひとみ◎1996年3月国立栃木病院附属看護学校卒業。同年4月国立栃木病院(現・国立医療センター)入職、整形外科病棟・手術室勤務。2000年4月那須南病院入職、内科・外科病棟、内視鏡室、救急外来勤務。2016年4月息子の進学のため神奈川県に転居。医療法人篠原湘南クリニッククローバーホスピタル入職、在宅診療部勤務となる。



看護部長 **長谷川よし子**

はせがわ・よしこ◎1977年3月神奈川県立衛生短期大学卒業。1977年4月茅ヶ崎市立病院に入職。1981年12月同病院を退職。1990年3月神奈川県立看護教育大学校看護教員養成課程修了。その後、川崎市、藤沢市内などの病院にて看護部長職を務める。2019年4月医療法人篠原湘南クリニッククローバーホスピタルに入職し、現在に至る。

当院は回復期・慢性期に位置する170床の在宅療養支援病院である。設置主体である法人は、藤沢市南部の医療活動に携わり30余年、当院は17年目になる。明確な理念の下、地域に貢献する医療を目指し、地域のニーズと国の施策を鑑み、数度の増床を経て現在に至る。当初、医療療養病棟60床、介護療養病棟60床の120床から始まり、2019年1月に前述したように170床の病院となり、現在に至る。

当院は170床の中小病院であるが、「働き方改革」「多職種連携」などに積極的に取り組み、実践している病院である。筆者(山崎)は在宅療養部門に勤務し、病院内・法人内・地域との連携に心を砕いてきた。かねてから地域のケアマネジャー(以下、ケアマネ)から、医師との連携に関する悩みを聞く機会があり、今回、ケアマネと医師との研修を実施し、示唆を得ることができたのでここに報告する。

在宅診療部の概要

在宅診療部の主な業務内容は、次のとおりである。

クローバーホスピタル 病院概要

神奈川県藤沢市

回復期・慢性期に位置する170床の在宅療養支援病院である。設置主体である法人は藤沢市南部の医療活動に携わり30年になる。地域包括ケア病棟46床、回復期リハビリ病棟60床、医療療養病棟31床、特殊疾患病棟33床、外来の5単位である。

- ・通院困難な患者や、自宅・施設での療養生生活を希望する患者への訪問診療
- ・在宅療養に関する相談窓口
- ・患者にかかわる介護事業所職員との情報共有
- ・地域に向けた研修会・講演会の企画・運営

2020年3月現在の職員数は、医師17人（非常勤含む）、看護部5人（看護師および救急救命士）、在宅療養支援室4人、医事課職員7人、ドライバー3人の計36人である。

2019年9月、在宅診療部は組織改編し、在宅療養支援室として室長1人、相談員2人を配置した。主な業務内容は、相談窓口、契約業務、訪問スケジュール管理、患者情報管理、法人内・法人外・地域などの連携強化である。

研修開催に至る経緯

在宅診療部は、積極的に施設を訪問し情報を得たり、カンファレンスに参加したりするなど、地域とのつながりを重視したかわりをしている。その中で2019年2月、医師3人と連携施設Bのケアマネ5人によってディスカッションを行う機会があり、直接話すことで相互理解につながる有意義な場となった。現状、医師とケアマネのコミュニケーションがスムーズでないこと、連携することでよりよい医療や看護・介護が提供できることを改めて実感した。そのため、医療連携として、在宅診療部で研修を企画・実施する運びとなった。

研修状況と成果

研修を実施するに当たり、在宅診療部内で内容を検討した。研修の参加者は、他事業所からはケアマネ事業所11カ所25人、当事業

部からは医師5人、看護師1人、相談員3人の計34人で、2019年9月某日土曜日の15～17時に実施した。

研修の内容は、B施設の管理者からケアマネ業務と役割について講義をしてもらい、その後、5グループに分かれグループワークを行った。各グループに医師を1人配置し、テーマは次の2つとした。

- ①ケアマネが医療連携をする中での失敗例
- ②ケアマネから見た理想の医師、医師から見た理想のケアマネ

これらのテーマを選択した理由は、今まで多職種・他施設から得た情報の中で、ケアマネから見た医師は敷居が高く感じる傾向にあり、また連携をする上で失敗例は何が原因だったのかを振り返るよい機会となると考えたからである。

①については、「ケアマネから病院に対し退院前カンファレンスを求めたが、入院時の情報提供を怠っていたために、退院時にスムーズな連携が図れなかった」といった内容だった。ケアマネとしては、入院中の嘔下、点滴など医療行為を知りたかったが、医師やMSWからは、そもそも入院時に生活環境や介護力、経済状況などを知りたかったと言われてしまった、という失敗談だった。

病院側としては治療と同時に、事前情報を参考にしながらリハビリゴールなどを決めて退院調整を行っているので、ケアマネとして入院時情報提供の大切さを改めて認識したという意見が出された。

また、②については、「ケアマネから見た理想とする医師」「医師から見た理想のケアマネ」についてグループワークすることで、職種として求められていることや期待されていることが明らかとなり、今後の課題が明確

になると考えられた。

ケアマネから見た理想の医師は、医師とケアマネがバリアフリーな関係で、患者の健康状態、生活状況が改善されるのが一番であり、患者に寄り添い生活面も一緒に考えてくれる医師、福祉職の説明では理解の得られない患者・家族へ医療視点で伝えてくれる医師であることが分かった。

さらに、医師から見た理想のケアマネは、生活全般をしっかりと支えてくれて、日常変化について遠慮なく報告してもらえるケアマネであり、医療・福祉の視点が異なると方向性が変わることもあるので、足並みをそろえるために日頃からのコミュニケーションは必須と考えていることが分かった。

ケアマネからは、「ケアマネの役割について医師から助言をもらったことで、今後の業務に生かせる」という意見が多く聞かれた。また、「顔の見える関係」だけではなく、共に支援する「腕の見える関係」、つまり、それぞれが専門性を発揮できる関係づくりに努めたいという思いが述べられた。地域のケアマネと医師が直接意見交換ができる機会はなかなかないので、継続して企画してほしいという要望も挙がった。

医師からは「近所のお節介おぼさんのなスタンスで気軽に話しかけてほしい」というようなユーモアのある発言もあり、和やかに、かつそれぞれが専門性を持って、医師から認められるように働きかけていかなければならないという思いも感じられた。

このような医師の協力態勢を改めて知り、ケアマネからは「医療ニーズの高い方や自宅看取りなどの対応に前向きになれた」という意見も出た。地域のケアマネは、多重課題を抱えながら、どこにどうつなげていくか、ど

こに相談したらよいかなど、模索しながら業務に当たっていると思われる。当院の在宅診療部が、相談できる・連絡できるよりどころとなれるような関係性を強化していければと考える。

ケアマネと医師の異なる発想から、気づきや学びを継続して共有していくために、今後も継続して取り組んでいく予定である。

まとめ

地域包括ケアシステムにおいては、地域が連携し、その人がその人らしい生活ができるよう支えていく役割が私たちにはある。自助・互助・共助・公助により、生活課題を解決していく上で、院内・法人内にとどまらず地域の連携を円滑にし、情報交換することで、より質の高い医療を提供し、地域に貢献していけるようさらなる連携の強化に努めたい。

参考文献

- 1) 宮本尚：ケアマネを悩ませる主治医と連携がうまくいく 困ったケース・場面の解決策40 主治医VSケアマネ、日総研出版、2013。

近刊10月

重症な患者も
看護師と協働してケアできる
マニュアル整備と教育の実際


看護補助加算、 急性期看護補助 体制加算、 看護夜間体制加算 等で増収!

〈編著〉井上裕美子
社会医療法人愛仁会本部 特任理事 看護担当

●令和2年度診療報酬改定に準拠
●実際のマニュアルを掲載。改善見本に!
●外国人看護補助者の採用・教育が実践に沿ってわかる。

主な内容

- ・看護補助者に関連する診療報酬の概要とその背景
- ・看護補助者への看護業務のタスクシフト
- ・看護補助者の業務マニュアルの作成と活用
- ・看護補助者教育プログラムの実際
- ・外国人看護補助者の採用と教育



詳しい内容は 日総研 601911 検索